【イベントレポート】NEDO SSA 修了生同窓会を開催しました



令和 8 年 7 月 24 日（金）、1 期～10 期の修了生を対象とした、NEDO SSA 修了生同窓会を開催いたしました。

当日は、80 名程にご参加いただき、様々な領域で研究開発型スタートアップの支援をされている NEDO SSA 修了生（以下、修了生）が、一同に会する機会となりました。

■NEDO Startup Supporters Academy（NEDO SSA）とは

研究開発型スタートアップの成長を伴走支援できる中核的な「支援人材」を育成する支援人材養成特別講座。
スタートアップの創出や成長を後押しし、日本の産業競争力の向上に貢献するためにスタートアップ・エコシステムの底上げ・活性化に寄与する人材育成を目指した研修等を実施しています。
詳細はこちら
https://www.nedo.go.jp/activities/ZZJP2_100404.html#pageTop

■開催の背景

NEDO SSA は 2017 年度に 1 期を実施し、2025 年度で 10 期を迎えました。
この節目に、修了生が期を越えてつながり、これからの研究開発型スタートアップ支援の輪をさらに広げることを目的として開催いたしました。
本会では、スタートアップ支援に関する新たな情報や知見を得る機会に加え、修了生同士の交流を通じ、今後の活動につながる新たなきっかけを生み出す場となることを目指しました。

■当日の様子

SSA のこれからと、広がる支援のかたち

同窓会は、NEDO 担当者から SSA のありかたや今後のプログラム方針の共有からスタート。これからの SSA では、より実践的なスキルの習得や NEDO スタートアップ支援事業を活用しながら多様なプレイヤーや情報を結び付け、ディープテックスタートアップの伴走支援に従事する「中核人材」の育成を目指していくことが報告されました。

続いて、NEDO が取り組むさまざまな活動の中から、 修了生にも支援者として活躍していただける JOIC・MPM・K-NIC についてご紹介しました。各取り組みへの理解を深めていただき、今後の支援者としての活動につながる機会となりました。

SSA 修了生の支援事例を知る




飯野 初美 氏（9 期修了生 東京理科大学)と山本 哲也 氏（6 期修了生 株式会社ライズ・コンサルティング・グループ)が登壇。

飯野氏からは、支援者、研究者、起業家が同じ組織内にいる大学だからこそ抱える課題と、SSA 参加をきっかけに生まれた、所属機関である東京理科大学で実際に行っているプロジェクトについてご紹介いただきました。

教員へのアプローチの効率化や事業検討における AI 活用、国策事業との連携、大学に帰属しない学生の知財サポート等、現在も SSA9 期の仲間と連携し、課題解決に取り組まれています。
続いて登壇した山本氏からは、SSA での学びと出会いを機に広がったキャリアをご紹介いただきました。大企業で研究開発・新規事業開発を担う中、SSA で「スタートアップファースト」の視点を育み、経営コンサルタントへ転身。その後、NEP 開拓コースの伴走支援者（AR）や地域の起業支援メンターに就任。プレイヤーから起業家に伴走するサポーターへと、活動の幅を広げた経験を語っていただきました。

仲間と語る、ディープテック支援の課題
続いて、大学機関・事業会社・VC など、近い属性の修了生同士でグループに分かれ、ワークショップに取り組みました。同じような立場だからこそ共有できる、現場で感じている支援の課題に対しディスカッションを行いました。
どのグループも積極的に意見を交わし、中には白熱した議論をされているところも。
さらに、ワークショップで出し合った課題に対し、SSA プログラムで講師を務める開志専門職大学 各務氏、S-Factory 尾崎氏、株式会社日本総合研究所 東氏がフィードバック。
幅広くスタートアップ支援に携わる 3 名から、実際にどのような支援ができるのか、今までの経験をもとに貴重なお話を伺いました。





新たなつながりをつくる
最後には SSA 講師の方々も交え、参加者同士の自由な交流を実施。
ワークショップを通じて同じ課題を共有した修了生がさらに親睦を深め、より踏み込んだ意見交換や情報共有を行う姿が多く見られました。

■参加者からの感想

参加者からは、「支援者としてどのような行動を起こしていくことが重要なのかを改めて実感し、モチベーションが高まった。今後は課外活動にも意識的に取り組んでいきたい。」といった声が寄せられました。異なる現場で活躍する修了生同士のディスカッションを通じて、自身の現状認識や問題意識を改めて見つめ直し、ブラッシュアップする機会となりました。

■まとめ

同窓会の開催を通じ、所属や立場などの属性に関わらず、同じ SSA 修了生としてつながり、互いの経験や知見を共有する貴重な機会となりました。
SSA では、講習を通じて個人のスキルやノウハウを育てるだけではなく、修了後も支援者同士で関わりを持てる機会を提供し、ディープテック領域における支援の輪を広げていきます。